Special Interview

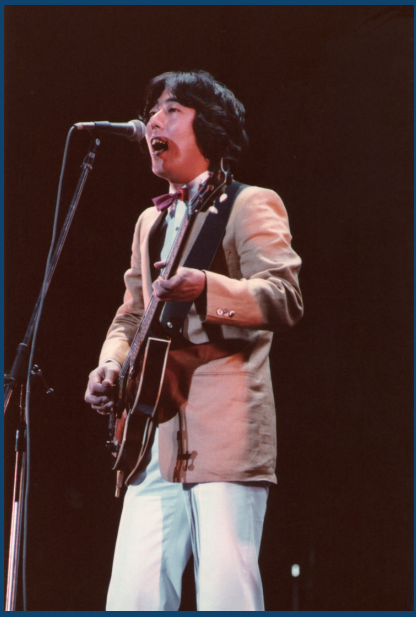
名優 & 伝説のベーシスト 岸部一徳インタビュー！

今や“名優”と言っても過言ではないほど、数々の映画やドラマでいぶし銀の存在感を放ち続けている俳優＝岸部一徳。若い世代の人たちには岸部一徳の俳優の顔しか知らない人も多いかもしれないが、元々ミュージシャンであり、凄腕のベーシストであり、日本が誇るあの伝説の人気 GS グループ＝ザ・タイガースのメンバーとして一世を風靡した男でもあるのだ。

ザ・タイガース解散後は、沢田研二と萩原健一の 2 人がヴォーカルだった伝説のロックバンド＝ PYG、そして、井上堯之バンドのベーシストとして活躍した。また、ザ・タイガースを知らない人でも、萩原健一や松田優作が出演して絶大な人気を誇った刑事ドラマ『太陽にほえろ！』のテーマ曲は一度は耳にしたことがあるだろう。あのグルーヴ感＆ドライヴ感最高のベースを弾いていたのも、何を隠そう井上堯之バンド時代の岸部一徳なのだ。

今回の巻頭インタビューに際し、岸部一徳さん本人は「もう音楽を辞めているから、音楽に関するインタビューなんて大丈夫かな？」と謙遜されていたが、「音楽の専門的なことは分からないけど、今の自分と繋がるものがあれば」と快く応じて頂いた。今年 12 月のザ・タイガース復活コンサートに先立ち、往年のタイガース・ファンの方々にはもちろん、若い世代の方にもこの伝説のベーシスト＝岸部一徳の一面をお伝えできれば幸いです。

【2013 年 8 月 16 日（金）六本木にて　取材＆文：加瀬正之】



＊この写真は岸部一徳さんよりご提供頂きました。

♪ 最初手にした楽器はベースだったのですか？

ベースですね。当時はギターを持つのが流行っていたんですけど、バンドをやることになった時に 1 人はギターで、もう 1 人はドラムで、「じゃあ、ベースやるか！」って、そんな感じで練習してやるようになりました。ベースを弾き始めたのは 16 歳の終わり頃でしたね。

♪ 最初に憧れたベーシストはポール・マッカートニーですか？

その頃はローリング・ストーンズも流行っていたし、エリック・クラプトンにジャック・ブルースがベースを弾いていたクリームやフェイセズとかもカッコいいなあって思っていろんなもの聴いていたんです。でも、ビートルズが登場して、ビートルズだとコーラスがあって全員で歌を歌うというスタイルだったので、圧倒的にビートルズに興味が移っていって、ポール・マッカートニーのベースに注目するようになりました。ジャック・ブルースも好きだったというか、自分がやったらどうなんだろうって思ってはいましたね。あと、曲名は忘れてしまいましたけど、ジャック・ブルースがクラシックの何を聴くとベース・ラインの勉強になるって語っているのを本で読んだりもしました。その頃はみんなそうでしょうけど洋楽のコピーばかりやってましたね。

♪ タイガースの原点でもあり、ファニーズ誕生前の 1965 年に岸部さん、森本太郎さん、加橋かつみさんと結成したサリーとプレイボーイズはエレキ・インスト・バンドだったそうですね？

ベンチャーズやアストロノーツの曲とかインストのバンドの曲をコピーして弾いていました。当時はみんなベンチャーズから始まっていた感じでしたよね。

♪ その頃に弾いていたベースは何ですか？

テスコのベースですね。テスコの中古のベースを買って弾いていました。それが一番最初に手にしたベースでしたね。

♪ ポール・マッカートニーと同じヘフナーのヴァイオリン・ベースはタイガースの時に入手したのですか？

いえ、買ったのはタイガースの前のファニーズの時ですかね。京都にいた時だったと思います。当時 7 万円台だった記憶がありますけど、今で考えると相当高かったですよね。ポール・マッカートニーが持っていた楽器ということで弾きたいなって思ったんですけど、あの楽器は軽いんで、タイガース時代に飛んだり跳ねたり、動くにも楽だったんですよ。ジャズ・ベースは重かったんでね。

♪ PYG や井上堯之バンド時代に使用していたベースは何ですか？

フェンダーのジャズ・ベースですね。今、息子がバンドでベースを弾いていて、そのジャズ・ベースを使っているんじゃないですかね。

♪ ジャズは聴かれていましたか？

僕らの 10 代の頃はモダン・ジャズが流行っていて、いわゆるジャズ喫茶でレコードを聴いて、お茶を飲んでという、大人になった気分でちょっと不良っぽい雰囲気の店にみんなでよく行っていたんです。アイビー・ルックが流行った時代でもあったんですけど、その時に『スイングジャーナル』を持ち歩くのが流行っていたんです。実際にジャズを演奏するということは全然なかったんですけど、ジャズとのそういう関わりはありましたね。

♪ 影響を受けたジャズ・ミュージシャンやアルバムはありますか？

その時代に流行った人たちのアルバムは一通り聴いていましたよ。いわゆるモダン・ジャズといわれるようなマイルス・デイヴィスとかハービー・ハンコックとか、その時代ですよね。「ああ、これがそうなのか！」って思ってレコードを聴いていました。でも、だからと言ってジャズをやりたいという気持ちはなくて、僕らは全然違う方向に行きましたけどね。

♪ ウッドベースを弾かれたことはありますか？

ウッドベースは弾く機会がなかったですね。

♪ 井上堯之バンドのメンバーとして『太陽にほえろ！』や『傷だらけの天使』のメイン・テーマでベースを弾かれていますが、レコーディングの時のエピソードを聞かせてもらえますか？

井上堯之バンドになって、映画音楽であったり、ドラマの音楽をやるようになって、いわゆるスタジオ・ミュージシャン的な要素が必要になってきたんです。譜面を渡されて、その場で譜面を見て弾くっていうようなことはそれ以前にあまり経験がなくて、もうちょっと勉強しておけば良かったと思う反面、このようにして弾くのもちょっと楽しいなって思ったりもしましたね。『太陽にほえろ！』のベース・ラインも譜面にコードだけ書いてあって、アドリブのような感じで弾いたんですけどね。全員で合わせるフレーズとかは決めていましたけど、あとはほとんど自由でしたね。

♪ ほとんど一発録りのような感じだったんですか？

そうですね。スタジオに入ってから短い時間で何曲もやるんで、時間がなかったんですよ。メイン・テーマ以外にもドラマの中で流れる音楽とかいろんな音が出てくるんで、次から次に録っていかないと間に合わないということはありました。

♪ ウィキペディアの情報として後藤次利さんにベースの手ほどきをしたのは岸部さんと記載されていますが、これは本当ですか？

いえ、それは全然違いますね。その情報が掲載されている経緯はちょっと分からないですね…。

♪ これもウィキペディアの情報ですが、レッド・ツェッペリンのベーシストだったジョン・ポール・ジョーンズが、来日公演の際にテレビで見た岸部さんのプレイに感動して、しきりに会いたがっていたという逸話があります。『プレイヤー』誌（1981 年）のインタビューにおいて「初めて日本に行ったとき、『PYG』という日本のバンドをテレビで見た。そして、俺達の『I Gonna Leave You』をやっていたんだ。ベースの奴はとんでもないスゴ腕でね。俺よりもいいんじゃないかと思ったぐらいだ。会いたかったんだが、結局会えずじまいだった。後にテツ（山内テツ）に会った時に『あれはお前か』と聞いたんだが、テツではなかったらしいよ」と述べていたそうですが、この話は知っていましたか？

後で聞いたりはしましたけど、当時は全く知らなかったですね。まあ、その情報も定かかどうか分からないですよね（笑）。

♪ 山内テツさんと交流はありましたか？

テツさんのライヴはよく見に行きましたよ。テツさんがイギリスに行くまでの所で、内田裕也さんを通じて会ったり、その後、向うのバンドとして日本に来た時に会ったりはしましたけど、一緒に何か演奏したりということはなかったですね。

♪ タイガース時代のライヴで岸部さんはオーティス・レディングの「ドッグ・オブ・ザ・ベイ」等を歌っていますが、当時この手の R&B も好きだったのですか？

そうですね。ステージでみんなそれぞれ何か歌うことになっていたので、僕はオーティス・レディングが好きだったので、歌うなら自分の好きな曲を歌わせてくれっていうことで歌いました。でも、元々歌は苦手なんで、無理矢理歌ってくれって言われたんで歌っただけですけど（笑）。でも、R&B は好きで、ダイアナ・ロスやフォー・トップスとかもよく聴いていましたよ。タイガースのイメージとは合わないんですけど、あれはあれでいいと思って聴いていました。

♪ タイガース時代の特に思い出に残っているライヴはありますか？

一番最後に日本武道館でやった解散コンサートとか、あとは、日劇のウエスタンカーニバルに初めて出た時ですかね。日劇の時は新人の頃で、タイガースっていう名前になって直後、一番初期の頃でした。内田裕也さんと尾藤イサオさんと一緒に出させてもらって、1 曲か 2 曲やったんですけど、全く誰にも知られていない頃でしたからね。東京で、しかも、日劇という大きい所での初めてのライヴだったので思い出に残っていますね。

写真提供：ユニバーサル・ミュージック

♪ タイガースのアルバムで岸部さんが一番好きなアルバムは何ですか？

『ヒューマン・ルネッサンス』ていうアルバムですかね。作曲や作詞はプロの人が手掛けるにしても、メンバーが意識的に、社会的というか、世の中の流れとか、それぞれが思うことに合わせた作ったアルバムだったんです。それまでのアルバムではそういう風に意識して作るということはなかったんですけど、みんなも気に入ってレコーディングしていましたね。

♪ 当時、他のバンドとも共演する機会が多かったと思いますが、印象に残っている日本のバンドはありましたか？

日本のバンドではスパイダースやブルー・コメッツですね。僕らはスパイダースのファン・クラブにも入っていましたし、面白いし、カッコいいし、憧れていました。

♪ 岸部さんといえば、ベースのテクニックだけでなく、「坊や祈っておくれ」（『ザ・タイガース 1968-1971 - ブルー・ディスク -』に収録）や PYG のデビュー・シングル「花・太陽・雨」や沢田研二さんのソロ・アルバムでも作詞を手掛けていますね。

常に書き溜めていたということではなくて、レコーディングに合わせて書いただけです。その時々で自分流に言葉に変えたらこういうことかとか考えながら書いていましたけど、作詞は難しいですね。

♪ 歌はいつ頃から歌い始めたのですか？

タイガース以前にもヴォーカルをやっていたということは全くないですし、ヴォーカルの意識なんて全然なかったんですよね。沢田が入る前は誰も歌なんか歌うことはなくて、それで歌を歌える人を探していた所に沢田が入ってきたんです。タイガースの頃は他のメンバーも歌って欲しいっていうファンのリクエストで歌ったりしましたけど、僕の方からヴォーカルをやりたいなんてことは全然なかったです。

♪ 1970 年に弟の岸部四郎さんとサリー＆シロー名義のアルバム『トラ 70619』をリリースされていますが、このアルバムはどのような経緯で誕生したのですか？

このアルバムはタイガースの後期の頃でしたね。タイガース時代のマネージャーが、僕と弟でタイガースとは全く違う何かをやってみようかというんで、いろんな人が参加してくれているんですけど、僕と弟に合わせたイメージで曲を書いてもらったりしたんです。売れない前提で作っているんで、どうせ売れないだろうから好きなことをやればいいんじゃないと言って作ったアルバムなんです。（日米安保

条約の自動延長されるはずの日付から付けられているという）タイトルはマネージャーが考えたんです。僕がベースを弾いている曲と弾いていない曲があったかな、でも、ほとんどの曲で弾いていたと思います。

♪ 躍動するベースがカッコいい 3 曲のインスト・ナンバー「Ys-11」も岸部さんがベースを弾かれているのですね？

あの曲もそうですね。僕がベースを弾いています。

♪ 12 月のタイガースの復活コンサートに四郎さんはゲスト等で参加される予定ですか？

今年も歌いたい、頑張って出たいって言っています。ずっと歌が好きだし、声もいいからね。今年も出るつもりでリハビリしたり、頑張っていろんなことをやっていますよ。

♪ 1975 年に井上堯之バンドを脱退して、その後俳優に転向されましたが、音楽を辞められた理由というのは何だったのですか？

まあ、タイガース時代っていうのは人気があって、その人気があるかないかっていうことが凄く大事で、それから PYG と井上堯之バンドをやって、『太陽にほえろ！』とかスタジオで音を作っていく中で、そういう時に音楽の勉強をちゃんとしていたかとか、ベースの才能というよりも音楽の才能があるのかとか、自分がどれだけ勉強して努力したのかとか、いろいろと考えた時期があったんです。それで、自分は勉強をちゃんとしてないなって思って、辞めるなら中途半端にずっと続けるよりも「もうここで諦めよう！」って自分で決めて辞めたんです。そのまま続けて、結婚して、生活もそれで成り立っていくと、辞められなくなるし、それを何とか続けていこうという風になるし、辞めて何をするかは別として、その前にやるかやらないかを自分で決めようと思って、それで辞めることにしたんです。その後、俳優の道を薦めてくれる人がいて、俳優の方に移ったんですけど、音楽をやりながら俳優をやるっていうんじゃなくて、もう音楽をここできっぱり辞めようと自分で決めたんで、決断した後は音楽に対する未練も全くなかったですね。

♪ 沢田研二さんはタイガース時代から岸部さんをずっと兄のように慕っていらっしゃるように思うのですが、岸部さんから見たアーティスト＝沢田研二、人間＝沢田研二について聞かせて頂けますか？

10 代の頃からずっと付き合って、音楽を一緒にやってきて、僕が音楽を辞めてからも会ったりして、その二人の関係性の中で彼がどういう人かっていうのはあまり人に言ってもしょうがないし、言う必要もないと思うんです。ただ、外から見る人がなるほどなあって納得できるところだけで言うと、やっぱりスターという場所を通った人。ほとんどの人が通れない、経験できない所を、彼がタイガースというグループから始まったとしても、その後ソロになってジュリーという形で今もずっと続けているっていうことは偉いなと思いますし、尊敬しますね。世の中の人からすると「今、ジュリーはどうしているんだろう？」と思える時期があったとしても、やっぱり彼が歌い続けていたお蔭で、タイガースが幻のグループという存在でいられるんだと思いますし、今年ももう 1 回みんなで集まってコンサートをやるにしても、やっぱりタイガースが全員揃ってやるんなら見に行きたいっていうものに繋がるのは、彼がずっとそこで頑張ってきたことが大きいんだろうなと、そういう風には思いますね。

♪ 俳優の仕事で忙しい中、12 月のタイガースの復活コンサートに向けて、日々ベースは弾かれているのですか？

練習をやらないといけないんですけど、ドラマの仕事もやりながらなんで、なかなか集中してできないんですよ。早く思い出さないといけないんですけどね（笑）。

♪ 息子の岸部大輔さんはバウンチホイールのベーシストとして 2004 年 10 月に CD デビューされていますが、ベーシストとして直接アドバイスなどはされているのですか？

いえいえ、アドバイスするようなことはないです。高校時代に友達と一緒に学校でバンドをやったりして、卒業してからも続けて今に至るんです。まあ、僕の息子っていうのは何かの形で出ているんでしょうけど、この世界はそれぞれ持っている運や才能による所が大きいですし、こればっかりは助けることもできないんでね。ふっと世の中に出て行ける運みたいなものもがあれば出て行けるだろうし、そうならない人もいっぱいいるんで、こればっかりは本人がどこまで続けてやるのか、本人任せですね。同じベーシストの道を歩んだことも、性格的というか、ベース向きなんだろうなあって感じはしますけどね。息子の方はちょっと歌も歌ったりもしますけど、ドラムを叩くっていうのはあまり想像できないし、ベースを弾いているっていうのは、ああそうだなって感じはしますね。

♪ 最近よく聴いている音楽は何ですか？

昔のビートルズやストーンズ、クラプトンやイーグルスを聴いたりとか、12 月にコンサートがあるので、昔のタイガースの曲をちょっと聴いてみたりとか、そういう聴き方ですね。あと、僕はマイケル・ジャクソンとか、実際に凄い人気がある時は聴いてなかったんですけど、亡くなってから映像を見たり音楽を聴いたりすると、やっぱりいいんだなあって感じがしたりとか、そういう形で時々聴いたりはしますね。

♪ 岸部さんの現在の夢は何ですか？

60 半ばを過ぎているんで、俳優っていう仕事を考えると、70 になれば 70 の役っていうのがあると思うんですけど、40 代には 70 の役はできないし、50 でも 70 の役は無理かな。だから、60 だと 60 にふさわしい役があったりするので、その時にちゃんとその役をできるかなとか、そういうのはちょっと楽しみに思うことはありますけどね。まあ、せっかく年を取ったんだから、若い方へ自分を向けて、例えば自分を 50 代の方に向けて何かを演じてみるっていうよりも、今の自分の実年齢、あるいはそれよりも上に向けた時に年相応のふさわしい役であったりとか、年を取っていいですねって言われようになればいいなって思いますね。

♪ 岸部さんにとってタイガースとはどのような存在ですか？

ひとことで言うと、まあ、全てがタイガースから始まっているっていうことですかね。今があるのもそうだし、いわゆるGSの人気グループで、どういうわけか、あの爆発的な人気グループにいたということ。まあ、スター性でいえば、ジュリー＝沢田研二がいて、彼が圧倒的に人気があって、その人気グループの中でのスターが彼だったんでね。そういう状況を同じグループにいらながら見たり、いろいろな現象、世の中が全てこっちを向いているみたいな、錯覚みたいなものも含めて、いい経験をしたと思いますね。それに勝る経験っていうのはたぶんもうないんでしょうけど。だから、今俳優をやっていますけど、音楽をやっていたという経験だけでなくて、そういう人気というものの渦中にいたということが、今の自分にとっていい経験として繋がっているような気がしますね。

♪ 最後に 12 月に行われるタイガースのコンサートに向けてファンの方にメッセージをお願いします。

この年齢でまたみんなで集まってできるというこんな幸せなことはないなっていうことと、たぶん全員で集まってやるのは、これが本当に最後になるのかなあって感じはしますけどね。10 代から始まって 60 半ばまで、それぞれみんな年を取ってお互いの人生があったタイガースっていうのが、楽曲は昔のものをやるにしても、どんな感じに見えるのかなとか思ったりしますよね。僕らは客席から見ることが出来ないんで、ぜひ僕らの演奏を見れる機会がある人は楽しんで見てもらいたいなって思いますね。

岸部一徳 ディスコグラフィー

初リサイタルの模様を収録したライヴ盤＆1st アルバム

ザ・タイガース・オン・ステージ
ザ・タイガース
UPCY-6698 [1967]

メンバー主演の同名映画のサントラ盤＆2nd アルバム

世界はボクらを待っている
ザ・タイガース
UPCY-6699 [1968]

加橋かつみ在籍時最後のアルバムとなった3rd アルバム

ヒューマン・ルネッサンス
ザ・タイガース
UPCY-6700 [1968]

1970年に発売された後期ザ・タイガースのベスト盤

ザ・タイガース・アゲイン
ザ・タイガース
UPCY-6701 [1970]

最後のスタジオ・オリジナル作品となった5th アルバム

自由と憧れと友情
ザ・タイガース
UPCY-6702 [1970]

ロックのカヴァーも披露した田園コロシアムでのライヴ盤

ザ・タイガース・サウンズ・イン・コロシアム
ザ・タイガース
UPCY-6703/4 [1971]

武道館での解散コンサートの模様を収録した7th アルバム

ザ・タイガース・フィナーレ
ザ・タイガース
UPCY-6705 [1971]

ザ・タイガース、沢田研二＆オールウェイズの出演音源

サヨナラ日劇ウエスタン・カーニバル
ザ・タイガース
APCA-157 [1981]（現在廃盤）

1982年の再結成時に発表された全曲新曲の記念盤

ザ・タイガース 1982
ザ・タイガース
POCH-1349 [1982]

1982年の再結成時のコンサートを収録したライヴ盤

A-LIVE
ザ・タイガース
UPCH-9025 [1982]

2013年に発売された瞳みのる監修による前期ベスト盤

ザ・タイガース 1967-1968 -レッド・ディスク-
ザ・タイガース
UPCY-6677 [2013]

2013年に発売された瞳みのる監修による後期ベスト盤

ザ・タイガース 1968-1971 -ブルー・ディスク-
ザ・タイガース
UPCY-6678 [2013]

岸部一徳（サリー）と弟、岸部四郎（シロー）名義の作品

トラ 70619
サリー＆シロー
PROA-108 [1970]

沢田研二と萩原健一がヴォーカルの伝説のロックバンドの名盤

PYG!
PYG
PROA-81 [1971]

井上堯之バンドの「太陽にほえろ！」「傷だらけの天使」収録

俺たちのメロディー
Various Artists
DNUT-1 [2002]

岸部一徳が4曲で作詞を手掛けた沢田研二5作目のアルバム

JEWEL JULIE 追憶
沢田研二
UPCY-6044 [1974]

【ザ・タイガース ユニバーサル ミュージック ジャパン公式サイト】
http://www.universal-music.co.jp/the-tigers

【ザ・タイガース プロフィール】

＜沢田研二（ジュリー）、岸部修三（サリー／後に岸部一徳に改名）、加橋かつみ（トッポ）、森本太郎（タロー）、瞳みのる（ピー）、岸部シロー（シロー／ 1969 年に脱退した加橋かつみに代わって参加）＞

大阪でローリング・ストーンズのナンバーなどを演奏し、高い人気と実力を誇ってグループが上京、1967 年 2 月に『僕のマリー』でデビュー。魅惑的な大きな瞳に端整かつ甘美なルックスで他の男性歌手とは明らかに一線を画していた沢田は 10 代少女から熱狂的な人気を博し、一躍芸能界を代表する国民的なアイドルとなる。
『モナリザの微笑』、『君だけに愛を』など数多くのヒット曲を放ち、グループサウンズ（GS）の王者として君臨し、ブームの最盛期を支え、デビューから解散までの 4 年間をかけ抜けた伝説のグループサウンズである。

岸部一徳さんサイン入りCD（1名）プレゼント！

住所、氏名、電話番号を記載の上、下記アンケート（①～⑤）にお答え頂き、件名に「岸部一徳サイン入りCDプレゼント係」と明記の上、下記メール・アドレス宛てにお送り下さい。
⇒ thewalker@k07.itscom.net
① 性 別 ② 年 齢 ③ 職 業 ④ 当インタビュー記事の感想 ⑤ 本誌の感想
【当選は発送にて代えさせて頂きます】

【曲目】1. 自由の哲学 2. 花咲く星 3. YS-11 4. しま模様の空 5. 愛についての一考察 6. 羊大学校歌 1 番 7. 愛の意識 8. 羊大学校歌 2 番 9. 白い街 10. 羊大学校歌 3 番 11. マザー・ネイチャー 12. サンシャイン・フォー・ユア・スマイル 13. どうにかなるさ 14. 自由の哲学・エンディング